



RSA暗号

Riverst-Shamir-Adleman

情報科学の世界II

2018年度

只木 進一 (理工学部)

RSA暗号概要

- ▶ 整数論という数学の応用
- ▶ 因数分解が困難であることに基づく
- ▶ 公開鍵暗号に利用される
- ▶ James H. Ellis (1969)及びClifford Cocks(1973)が理論的基礎を発見したが、長く秘密にされていた
- ▶ 1977年にRSAが公表。

整数の合同

Congruence

▶ 二つの整数 a と b 。ある整数 m で除した余りが等しい

▶ a と b は法 m について合同： $a \equiv b \pmod{m}$

▶ $a \equiv a' \pmod{m}$ かつ $b \equiv b' \pmod{m}$ ならば

▶ $ab \equiv a'b' \pmod{m}$

$$a = n_a m + a'$$

$$b = n_b m + b'$$

$$ab = (n_a m + a')(n_b m + b') = (n_a n_b m + n_a + n_b)m + a'b'$$

Fermatの小定理

- ▶ p を素数、 $a \not\equiv 0 \pmod{p}$
- ▶ このとき、 $a^{p-1} \equiv 1 \pmod{p}$
- ▶ 例示： $p = 11, a = 3$

$$3^2 \equiv 9 \pmod{p}$$

$$3^4 \equiv 81 \pmod{p} \equiv 4 \pmod{p}$$

$$3^8 \equiv 16 \pmod{p} \equiv 5 \pmod{p}$$

$$3^{10} \equiv (3^2 \times 3^8) \pmod{p} \equiv 45 \pmod{p} \equiv 1 \pmod{p}$$

Fermatの小定理 応用

- ▶ p と q を素数、 $\gcd(a, pq) = 1$
- ▶ このとき、 $a^{(p-1)(q-1)} \equiv 1 \pmod{pq}$
- ▶ 例示： $p = 5, q = 7, a = 11$

$$11^2 \equiv 121 \pmod{35} \equiv 16 \pmod{35}$$

$$11^4 \equiv 256 \pmod{35} \equiv 11 \pmod{35}$$

$$11^8 \equiv 16 \pmod{35}$$

$$11^{16} \equiv 11 \pmod{35}$$

$$11^{4 \times 6} \equiv 11^{(16+8)} \pmod{35} \equiv (11 \times 16) \pmod{35} \equiv 1 \pmod{35}$$

秘密鍵と公開鍵

- ▶ メッセージを受信する者
 - ▶ 二つの大きな素数 p と q を生成し、秘密鍵とする。
 - ▶ $m = pq$
 - ▶ $\phi(m)$: m と互いに素である1以上 m 以下の自然数の数。今は $(p - 1)(q - 1)$
 - ▶ k : $\phi(m)$ と互いに素である適当な自然数
- ▶ m と k を公開鍵とする

メッセージ暗号化 送信側

- ▶ m は L ビットであるとする
- ▶ メッセージ M を $L - 1$ ビット毎の語に区切る
 - ▶ $M = a_0a_1 \cdots a_n$
- ▶ 各語を変換
 - ▶ $b_i = a_i^k \pmod{m}$
 - ▶ $M' = b_0b_1 \cdots b_n$
- ▶ M' を送信

復号

- ▶ $kv - \phi(m)u = 1$ の適当な解 (u, v) を得る

$$\begin{aligned} b_i^v &\equiv a_i^{kv} \pmod{m} \equiv a_i^{1+\phi(m)u} \pmod{m} \\ &\equiv (a_i \pmod{m}) (a_i^{\phi(m)} \pmod{m})^u \\ &\equiv (a_i \pmod{m}) (1 \pmod{m})^u \\ &\equiv a_i \pmod{m} \end{aligned}$$

例

- ▶ 秘密鍵 $p = 13, q = 11, \phi(m) = 120$
- ▶ 公開鍵 $m = 143, k = 7$
- ▶ m は 8 ビット
 - ▶ 7 ビット 毎の語 に 分離
- ▶ $kv - \phi(m)u = 1$ の解 $v = 103$

数学的裏付けのある暗号

- ▶ 確実に符号化・復号化ができる
 - ▶ 数学的に保証されている
- ▶ 方式は公開／鍵は非公開
- ▶ 素数への因数分解が困難
 - ▶ 今のところ有効なアルゴリズムなし
- ▶ コンピュータの高速化によって、長い鍵が必要になっている